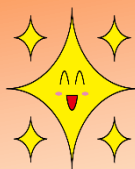


秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

きらりNet



令和3年6月29日

第114号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部



自立活動の指導について～病弱・身体虚弱の子どもたち～



自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」と学習指導要領にあります。病気の子どもたちは治療に対する不安、将来に対する不安など様々な心理的負担をかかえています。そんな子どもたちの気持ちに寄り添いながら、自己肯定感を高め、前向きな気持ちをもてるような学習活動を展開することが求められます。

病気の子どもたちに必要な自立活動の内容としては「生活習慣の形成、病気の状態の理解と生活管理等」「心理的な安定に関する内容」がよく挙げられます。病気を治すのは医療ですが、体調を良い状態に維持することや、睡眠をしっかりとること、疲れたら休憩する等の予防的な観点について、児童生徒が自ら意識し、意欲的に取り組んでいくことも大切です。

今回は、『本校で行われている自立活動の実践例』の一部を紹介します。

自分で気持ちを安定させる力を育てるために、友達や先生と運動して楽しい体験を積み重ねられる活動。

悩みやストレスとの向き合い方を考えるために、先生方に聞き取り調査をし、まとめ、考察する活動。

自己肯定感を高め、人との関わりを広げていくために、聴覚支援学校の生徒と、得意な手話を使った交流活動。

不自由さを感じる手の使い方を工夫するために、本人の希望する卵割りに挑戦し、卵料理を調理する活動。

体の状態を理解し、生活管理につなげるために、健康チェックシートや日記アプリに記録する活動。

きらりNet 第94号
(令和元年7月12日発行)も併せて御覧ください。

参考・引用文献「病気の子どもたちのための教育必携」「病気の子どもの教育入門」(文責：高橋亜紀)

研究協議会・研修会の案内

第62回全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 (奈良大会)

令和3年8月19日(木)～8月31日(火)

*Web開催 期間中いつでも閲覧可能

主題：児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育のあり方

～今ここから つなげよう つながろう～

二つの講演と分科会、特別企画に参加できます。

☆全病連奈良大会案内サイト

<https://zenbyou.online-rogram.jp>

令和3年度

肢体不自由・病弱教育地区別研修会

令和3年8月3日(火) 13:00～16:00

講演：秋田県立医療療育センター

センター長 坂本仁氏

情報交換会：地区ごと等のグループに分かれての情報交換

*今年度は県央地区のみの開催になります。来校していただく他、オンラインでの参加も受付いたします。

*7月上旬に詳細をご案内します。

令和3年度 かがやきの丘ミニ学校展、きらりミニ学校展の開催について(6、7月)

☆学校紹介パネル、児童生徒の作品や作業学習製品等を展示します☆

きらりミニ学校展② 6月24日(木)～7月7日(水)【北都銀行秋田東支店】

かがやきの丘ミニ学校展 7月14日(水)～7月22日(木)【遊学舎 県民ギャラリー】

※8月以降の予定は来月号でお知らせします



秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

日々の学習活動より ～中学部生徒の実践紹介～

悩みや心配を軽減させ、充実した学校生活を送ることを生徒とともに考え、周囲の方々と連携しながら取り組んでいます。

<状況> ・昨年度後期から体調不良が多く見られ、欠席や保健室で静養することが続く。
・授業に出られず、学習に遅れが目立つようになる。



本人の気持ち

願
い

・友達と一緒に元気に学習し
新しい勉強を覚えたい！

・勉強したいのに、体調がよくなる
ない。
・授業を休んでばかりいると、周囲の
人にずるいと思われるのではない
か。

悩
み
心
配



「今を大切に」生徒の心の揺れを察知しながら、関係者みんなで取り組みました

学級で悩みを打ち明け、本音で話し合いました。友達の思いやり、心配してくれている気持ちが分かりました。

各教科担当の職員に生徒の様子を定期的に伝え、体調に合わせて学習を進めていくことを確認しました。

学校生活の中で体調変化を記録し、それをもとに自分で振り返ったり、医療機関の受診に役立てたりしました。

教育専門監のコーナー

【子どもの想いや願いにそっと触れて】

【感情表出の理解(小林 2009)】

- 怒り 他者や周囲に変わってほしいという「願い」
悲しみ 苦境を分かち合ってほしい、助けてほしいという「訴え」
喜び 誰かと分かち合うことで加速される
恐怖や不安 問題があり、それを解消しなければならないという強い願い

【教師の大切な4つのかかわり(小林 2009)】

- 本人の好きなこと、得意なことを探りその面で付き合うようにする。
- 活躍の場を与える。
- 本人が安心していられる場所を作る。
- 不安や緊張や怒りや嫌悪などの不快な感情を言葉で表現できるようにする。

子どもたちは感情を表し、表現することを通して、自分の中にどのような感情があり、その感情をどのように扱っていけばよいのかに気付いていきます。

参考：生きることは、聴くこと、伝えること -表現のちからを信じて-

昭和大学大学院 副島 賢和 日本重症心身障害学会誌 第42巻 第2号

《学ぶことは生きること》

「自身が抱える不安に向き合うには、時に立ち向かい、時に距離を置くことが必要。立ち向かうには、不安を正しく理解し言葉にすること。距離を置くには、好きなことや体を動かすことに夢中になることと、自然に触れることが大切。」副島先生はそう話します。

生徒の大切な学びを止めないように、生徒の悩み、心配を受けとめ、想い、願いに寄り添う、中学部の実践。大切にしているのは、「いつもと同じ」という安全と安心の中で「あなたは一人ぼっちではないよ」と伝えること。生徒の言葉に耳を傾け、話を聴くこと。

生徒は「自分は守られている」という安全安心の中で不安と向き合い、学ぶための原動力となる「学び方」「学ぶ機会」「学ぶ楽しみ」「学ぶ意欲」を身に付けていきます。それは様々な状況の中で、自ら学ぼうとする力となっていきます。

<文責：二階堂 悟>



◇教育相談・見学の希望があれば、いつでも御連絡ください。
教頭 高橋 省子 地域支援部主任 大友 明希子
住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号
E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp
電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575
「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>